



# なんで家でも勉強するの？

校長 渡辺英哉

～学校評価アンケート結果から考える③～

大切な「古井の子」にこんなふう(タイトルのように)問われたら、私たち周りの大人は何と答えることができるでしょう？

正解は一つではないと思うのですが、

「勉強する(学ぶこと)って本当は楽しい」ということを味わってほしいからだよ。

こんなふう(タイトルのように)答えたいと考えています(いました)。

今回のシリーズ「学校評価アンケート結果から考える」は、(2学期終業式で)6年生の子たちが、「真っ先に取り上げたい」と言った「②家庭学習」について考えます。

② 家でも自分でやり方や内容を考えて勉強できる。(家でも何をやるか自分でわかって勉強できる:低学年。)

R3 児童	45	33	14	8
R4 児童	62	29	7	2
保護者	38	50	10	2
教職員	31	60	9	0

「取り上げたい」と彼女たちが言った理由は、「自分でやっているという感じがある」「自信がついた」といったことだそうです。

確かに、その実感を裏付けるような結果が表れています。初めてこの結果を見た時、私たち教職員も「しっかり伸びているなあ」と、感心しました。

しかし、「家庭学習の出し方(指示の仕方)」については、本当に苦心してきました。

学校の教育目標「自分で考えて行動する古井の子」に向けて、「脱『やらされている宿題』」を重点の一つとして取り組んできたのは、「素直な表情、態度が魅力の『古井の子』ではあるものの、「指示をされないと動けない(待っている)」という、どうしても乗り越えたい課題があるからです。

また、学力については、知識や技能を丸暗記や単調な反復で身に付けようとするのではなく、思考したり、判断したり、自分なりに表現したりすることで身に付けていくことの大切さが言われて久しいです。さらには、自分から「学ぼう」という気持ちを持って取り組んでこそ身に付く、逆の言い方をすると、そういう学び方をしないと、ある程度の期間はできるようになったように見えても、実際には残っていない。

そればかりでなく、はっきりとした目的もなく、いやいや取り組むことを

繰り返すと、学ぶことそのものが「いやなこと」、マイナスの印象しか残っていないということも言われるようになっていきます。



かと言って、「全部自分で好きなように考えてやってきなさい」だけでは、ただの放任になりかねません。

そこで、学年、学級の様子、一人一人の状態を見ながら、いろいろな方法を試してきました。

授業で学習した内容から「ここまではできるはずだよ」と、ドリル問題等の範囲を示して、自分で選べるようにしたり、その子がよく間違えるような問題を示したり、関係のある内容や問題を「サポートアイテム」として提供したり…。

工夫してやってきた子のノートを紹介したり、交流する時間をつくったりもしました。

初めは戸惑った子も多かったと思いますが、次第に「先生、また問題出して」「それ、自主勉強(家庭学習)でやってきていい？」など、進んで求める声が聞かれるようになってきています。

とくに高学年では、テスト前に互いに刺激し合って準備に向かい、点数がグンと伸びた子も少なくありません。

また、自分が興味をもったことについて、時には「プチー研究」のように取り組む子も出てきました。

このように取り組んできましたので、9割の(62%+29%)「古井の子」が「自分でやり方や内容を考えて勉強できる(低学年:家で何をやるか自分でわかって勉強できる)」と答えられることは、たいへんうれしいです。ですが、自信をもって「はい」と言い切れているのは、まだ、62%です。満足してしまうことなく、試行錯誤を重ねていきますが、古井小学校として、次の二つを大切にしていこうと考えています。

#### 【どの学年の子も】

家で何に取り組むのかわかるようにして帰します。

\*「今日は何やるの？」に対して、「●●をやるよ!」と言えます。

#### 【学年が上がるにつれて】

「なぜ、それをやるのか」理由がわかるようにして帰します。

\*「自分は、ここが苦手だから」「これをもっと知りたいから」等々

たいへん長くなっていますが、まだ続きがあります。

6年生の子たちが、アンケート結果について、2番目に「取り上げたい」と言ったのは、「⑤将来の夢や目標」でした。



#### ⑤ 将来の夢や目標がある。

R3 児童	66	18	6	10
R4 児童	71	17	5	7
保護者	43	46	10	1
教職員	22	49	27	2

これも、昨年からの伸びが見られる結果なのですが、彼女たちは「これには、『②家庭学習』が影響している」と言うのです。

「普段から自分で自分のやることを決めてやってきたら、目標をもつことにやりがいや自信をもてるようになってきた。」

まったく予測していなかった言葉と、「自分もちょっといけてるでしょ」と言わんばかりの表情に、一瞬、言葉が出ませんでした。

何かに自分から向かっていくことは、生き方まで学ぶくらい、その人をたくましくすることなのかもしれません。「また『古井の子』から学ばせてもらった」と感じた瞬間でした。

このことを裏付けるような話になりますが、中学年の子のお家からも「最近、勉強だけでなく、家のことも考えてやってくれるようになりました」という、うれしいお言葉をいただいたこともあるそうです。

こうしたことから振り返っても、「自分で考えて行動する」ことの価値や可能性を感じている学年末です。

(令和4年度最終号につづく)

